

漏水防止・圃場の均平化を徹底しましょう!

- 水稻の生育と除草剤の効果安定には水田の水持ちをよくする必要があります。用水路や畦畔の亀裂、畦畔や圃場にモグラ穴等がある場合は早めに補修しましょう。
- 圃場に凸凹があると、凸の部分は除草剤が定着しにくいと雑草が発生しやすく、凹の部分は苗が冠水したり、排水しにくい等の問題が発生しますので、低い箇所への客土など圃場の均平作業をしてください。

土づくり

- 土壌の物理性や化学性・生物性を改善し、イネが生育しやすい環境を作るため稲わらや堆肥等の有機物を投入しましょう。
- 未熟の堆肥を入れるとワキ(ガス害)が発生し、稲の生育に悪影響が出ますので、完熟したものを入れましょう。
- 稲わらを入れる場合は、**収穫後遅くも11月上旬までに**腐熟促進のため10a当たり20kgの石灰窒素を散布し、稲わらと一緒に鋤きこんでください。
- 倒伏防止やイモチ病軽減のため、ケイカルなどのケイ酸資材を**10a当たり100~150kg**施用しましょう。
- 作土が浅いと生育が劣り、表面にある肥料やワラの残渣などの夾雑物も埋没しにくいので、**15cm**を目安に耕耘しましょう。



苗づくり

昔から苗半作といわれるように、苗の良し悪しはその後の生育を左右します。基本に返って失敗ないようにしましょう。目標とする苗質、箱数等は下表のとおりです。

苗種	育苗期間	箱当たり播種量 (g)		10 a 当たり 箱数	目標の苗数	
		乾籾	催芽籾		草丈 (cm)	葉数 (枚)
稚苗	20~25日	130~150	160~180	16~20	10~15	2.0~2.5
中苗	25~40日	80~100	100~125	24~30	15~20	3.0~4.0



育苗資材の準備

育苗器・育苗箱

ケミクロンG又はイチバンの1000倍液で浸漬
もしくは500倍液で散布



育苗用土

粒状培土を1箱当り4~5ℓ用意し、タチガレン粉剤を箱当り3~6g混和する
(粉剤に変えて播種時又は発芽後にタチガレン液剤の散布も可)

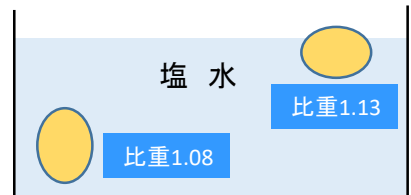
種もみの準備

うるち:水10ℓに塩2.1kg もち:水10ℓに塩1.3kg

塩水選

所定の塩水濃度(比重:うるち1.13、もち・酒造米 1.08)で充実した種子を選ぶことにより、出芽揃いが良くなる。塩水濃度は比重計で確認するが、簡便な方法として卵を使った方法がある。(右図)塩水選後は水洗いして水切りする。

(図1)卵を使った塩水の作り方



種子消毒

殺菌剤と殺虫剤の混合液に24時間浸漬

テクリードCフロアブル又はスポルタックスターナSEの200倍液とスミチオン乳剤1000倍液の混合液を作り水温15℃以上に保ち、攪拌しながら浸漬する。消毒後、風乾し浸種へ。

浸種

水温15℃で7日間 又は 10℃で10日間

発芽を均一にするための作業。必ず清水で行い、種もみ1kgに対して水約3.5ℓの割合とする。種子消毒効果をも高めるため、浸種開始後2~3日間は水交換しない。その後は1~2日おきに水を交換し、酸素供給を促す。水温10℃で10日、15℃で7日を程度浸種する。

催芽

鳩胸程度

催芽は、水温30~32℃で20時間が目安です。芽と根が1mm出た鳩胸状態を必ず確認してから終了し、伸びすぎに注意すること。(右図)

(図2)催芽の状態



播種